

新宮山彦ぐるーぷ第1903回

## 大日岳行場(鎖場)に注意書設置、深仙小屋LED交換など

◇実施日；2016年10月21日(金) 晴れ  
◇参加者；梶野照雄、豊嶋 寛(釈迦ヶ岳登山)。 2名。

以前から大日岳行場(鎖場)の危険性を憂慮し、何らかの対策を講じる必要性を感じていた。

昨年11月「ホテル浦島」での祝賀会で同席した下北山村の勝平前総務課長に、注意書き設置の旨を伝えて了承を頂いた。

今年9月に開催された、世界遺産「吉野・大峯」地域連絡協議会の席上、修験団体から大日岳登山者への苦情及び注意標識設置場所の追加等寄せられたのを機に、注意書きの看板を製作、設置した。

簡単で、誰もが納得するような注意書きに、と思い色々考えてみたが、山上ヶ岳の女人禁制のように宗教由来にすればいちばん解り易いと考え、写真の文面にした。



製作中の看板



塗装して完成



本日の荷物

看板取り付けのためのステンレスボルト、ナット、針金や鉄筋を準備して旭登山口に向かった。平日ではあるが、既に4台が駐車、すぐ後でもう一台やってきた。

いつもと同じように、不動木屋登山口分岐、古田の森、千丈平で休憩して深仙宿へ捲き道を下る。青木さんの笹刈のお陰で、道幅も広がり、安心して通行できる。

伊富喜行者の碑前で、スマホを出し般若心経をながして簡易勤行する。

下り出してからすぐ、熊鈴の音が聞こえて誰か登ってきた。豊島さんだった。ありやりや、こんなところで、とお互いびっくり。紅葉の写真を撮りに来られたそう。12時までには釈迦ヶ岳へ、と言われてすぐに別れた。



豊島さんとバツタリ



深仙小屋で昼食



大日岳手前の岩峰

さつきからお腹がグーっと鳴り出していたので、深仙小屋で昼食。お腹が満たされたところで、大日岳を目指す。大日岳の鞍部に到着、荷を下ろして作業開始。

看板設置場所の笹を刈って鉄筋2本を打ち込む。幸い岩は無く、思い通りに打ち込めた。看板の足を針金で止め、ステーを取り付

けて注意書きの看板は設置終了。続いて迂回路の標識は、目立つところに同じように設置。迂回路の入口付近の笹を刈り、進入しやすいようにした。作業時間は、ちょうど一時間だった。荷物をまとめて深仙小屋へ向かう。



笹を刈り取る



鉄筋を打ち込む



ステーを取って



迂回路標識も



離れて全体を



奥駆道へ下る

大日岳行場から南西にまっすぐ降りると奥駆道に到達するが、そ

の間、約50mの笹を刈りながら下った。深仙小屋に到着、始めに切れたLED2灯を交換する。9月に下準備はしていたので、スムーズに交換できた。次に、取れてしまったドアの掛け金を丈夫なものに付け替え。止まっていた掛時計の電池を交換して小屋の作業は終了。深仙小屋内にゴミは無く、利用者はきれいに使ってくれているようだ。



LED交換



5灯全部点灯



ドア掛け金取り付け

しばらく休憩して、午後3時5分深仙小屋を離れて帰路につく。古田の森で場所の変わった標識を針金で補強するが、もう一つ良くない、次回別の方法を考えてみる。日没になることは最初から織り込み済みで、前鬼から登ることも考えてみたが、真っ暗でも下り易い旭登山口からを選択した。

大日岳の登山道に「迂回路」という表現を使ったが、「捲き道」は山頂を通らず山腹を捲いて、山頂の向う側に至る。と理解している。同じ山頂を目指す違う2つのルート、鎖場を迂回する、という意味で「迂回路」とした。

大日岳の鎖場や山上ヶ岳の鎖場は、修験者の修行を目的としたもので、登山者は対象に含まれていないと考えられる。山上ヶ岳の鎖場は、鎖に頼らずとも登ることができる。大普賢岳付近のハシゴや棧道、弥山川のハシゴなどは、専ら登山者を対象に設置されている。

30年ほど前には、大日岳の鎖場を知る登山者は少なかったのだが、近年のインターネットの普及、スマートフォンの急増、熟年登山者の増加などで、ネット上の投稿を見て興味本位で鎖場を登ろうとする人も増えていると思われる。

行場は本来、修験者のための場所、登山者は礼節をもって入らねばならない。絶滅危惧種と言われる行者と増え続ける登山者、お互いが相手をよく理解することが軋轢を生まないことにつながると思う。

### 行動タイム

8:30太尾登山口8:45→11:55深仙小屋・昼食12:20→12:41大日岳  
行場13:47→14:33深仙小屋・LED交換など15:05→17:52太  
尾登山口。

(記：梶野)